

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0272501338		
法人名	社会福祉法人 奥入瀬会		
事業所名	グループホーム あゆみの里		
所在地	青森県上北郡おいらせ町東下谷地618		
自己評価作成日	令和3年7月12日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉協法人 青森県社会福祉協議会		
所在地	青森県青森市中央3丁目20番30号		
訪問調査日	令和3年8月4日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者一人ひとりのその方らしさ、個性を大切にしている。また、日々の生活の中で毎日笑って過ごしていただけるように、その方の特技や好きな事を引き出した支援をしている。 ユニット活動では畑作業を通して意欲向上につなげ、昔やってこられた事を一緒に行っている。館内では、季節感を感じられる装飾作りをしている他、おやつ作りは皆様から好評なので、定期的に行っている。歌が好きな方が多く、生き生きした表情をされている。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

職員は利用者一人ひとりに向き合い、できる事を引き出して生きがいを見つけ、その人らしく過ごしてもらえるように支援している。 コロナ禍で制限のある中、ホームでは庭でお茶会や七輪での焼き鳥屋台等を行う等、工夫しながら、利用者の楽しみとなるような支援に努めている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	☐	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	☐	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	☐	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	☐	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	☐	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	☐	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	☐	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	☐	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	☐	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	☐	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	☐	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	☐	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	☐	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	施設内の目に付く所に掲示をしたり、毎年勉強会で取り入れ、理念の共有をしている。	地域密着型サービスの意義を踏まえた独自の理念を掲げ、ホーム内へ掲示する等して共有している。職員は利用者一人ひとりのできる事を引き出しながら、生きがいを見出し、日々の生活の中で継続できるよう、理念を反映させたケアに取り組んでいる。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町にオリンピックの聖火リレーが来た時の様子を携帯電話からテレビに繋ぎ、観戦した。また、去年は園児が庭に遊びに来て踊りを披露してくれており、今年も予定をしている。	コロナ禍のため、多くの行事を自粛しているものの、併設の幼稚園児が庭で踊りを披露してくれたり、駐車場にチョークで自由に絵を描いてくれる等、工夫しながら地域との交流を図っている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	法人の新聞を役場や病院に掲示していたが、コロナの状況をみて開催を予定している。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回の運営推進会議では、意見交換を行ったり、役場の方や民生委員の方から意見をいただき、支援に反映させている。	運営推進会議は民生委員や家族代表、町担当職員、地域包括支援センター職員がメンバーとなり、開催している。会議では、ホームから利用者の状況や各種報告を行い、出された意見をサービスの質の向上に活かしている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議で情報交換をしたり、ホームの実情や取り組みを報告している。	運営推進会議には町の担当者や地域包括支援センター職員の参加を得ており、情報共有をしている。また、町とは福祉避難所として協定を結んでいる他、今回のコロナ禍においては更に連携を図りながら、ホームの運営に取り組んでいる。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関や非常口、出入りのある所にはメロディーのセンサーを設置している他、ナースコールでのお知らせが困難な方にはベット足元にセンサーを設置し、速やかに対応できるようにしている。また、月1回の身体拘束廃止委員会を開催し、他部署と情報を共有しながら、廃止に向けた取り組みを話し合っている。	月1回、法人全体の身体拘束廃止委員会を開催し、それを踏まえ、ホームでの勉強会を定期的に行っている。玄関は施錠はせず、メロディーセンサーの設置により、出入りの自由を確保している。また、帰宅願望の強い利用者には、その思いを制止せずに見守り、一緒に散歩する等して気分転換を図っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ホームでは「自分がされて嫌な事はしない」という虐待の定義を持ち、マニュアルを基に勉強会を行っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日常生活の中で入居者ができる事、難しくなっている事を見極め、日々の申し送りやケース会議に取り上げ、支援に繋げている。また、後見人を利用されている方がいるため、情報の共有やご家族様との最終の連絡はどこで取るか等、話し合いをしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時の対応は管理者が行っており、重要事項説明書や契約書の読み上げ、説明を行い、ホームの理念を伝えながら、理解を得て捺印をいただいている。それ以外にもご家族様の希望を伺い、介護計画に反映させている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱の設置やオンブズマンとの関わりで、入居者が意見や要望を訴えることができる体制を整えている。ご家族様とは電話連絡が多くなってきているので、その時に意見をいただいたり、要望を聞くようにしている。	コロナ禍によるホームへの来訪制限のため、窓越しでの面会や電話等での連絡を密に行い、家族の意見の把握に努めている。また、毎月写真と共に便りも送付し、家族が意見を出しやすいように働きかけている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議や日々の申し送りの業務の中で、意見交換や提案する場を設け、職員に広く意見を求めながら検討し、反映させている。	法人の全体会議やホームの会議・勉強会を定期的に行い、職員が意見を出せる機会を設けている。管理者は職員の意見や提案を聞くように努め、出された意見は検討し、必要に応じてホームの運営やケアに反映させている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回の健康診断を実施している。就業規定に従い、職員にやりがいをもって働いてもらえるよう、行事の担当を担い、自身も楽しみながら達成感につなげてもらう等の取り組みも行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員会議の全体研修やホーム内勉強会、認知症勉強会を毎月実施し、日々のケアに活かせるように意見をもらっている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会へ加入しており、連絡や案内があれば、研修会に参加している。今後も新型コロナの状況をみて参加していく。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用開始前に担当ケアマネジャーと共に事前面談を行い、ご本人様より話を伺って要望等を聞き取り、入居の段階で安心して生活できるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前面談及び契約時に要望や困り事等を聞き取り、ケアプランに盛り込んでケアに活かせるように努めている。入居前には施設見学をしていただき、ホームの雰囲気を見させていただいている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	認知症だけではなく他の疾患を抱えているため、医療面からアプローチする場合等、その時に応じた支援を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	生活の中でできる事は継続して行えるよう、動作や行動を見極め、見守る事も支援と考えて実践している。また、各入居者の状況を職員間で申し送りや書面にて伝達し、介護計画へ反映して共有しながら、同じ対応ができるようにしている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	体調の変化や行動の周辺症状が顕著な場合は、状況に応じてご家族様へ報告、相談を行い、対応を検討している。また、通常の場合も、月1回の手紙や来園時にご家族様に生活状況を伝え、入居者を支える関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	携帯電話をお持ちの方は自由に電話をかけている。また、ご家族様や友人から連絡があれば、自由にお話されている。状況報告時にはご本人様とご家族様とで話ができるよう、間を取り持っている。	コロナ禍のため、面会や外出を制限している状況ではあるが、電話の取次ぎを行う等、利用者がこれまで大切にしてきた関わりを継続できるよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士の人間関係を理解した上で、馴染みの仲間グループを作り、作業や活動を行っている。また、トラブルが発生した際は職員が仲裁に入っている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	グループホームでの生活が困難となり、他施設へ転所になっても、生活を極力変えることなく継続できるよう、情報提供・交換を行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	聞き取りが可能な入居者に関しては、日常会話で聞き取りを行っている。困難な場合は職員やご家族様から要望を聞き取り、話し合いを行って対応している。	利用者が安心した気持ちで思いを表せるよう、職員は利用者をゆったりと受け止めることを心がけている。毎月の会議では利用者の要望等を確認し、全職員で共有しながら、日々の支援に取り組んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時にご家族様から生活歴を聞き取り、気が付いた点や不足部分については電話をした時や来園時に確認し、個人記録等に記載して、把握している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日中、夜間の状況をケース記録に記載している。いつもと違う点に関しては、生活日誌にて申し送りとして挙げて観察ポイントとし、申し送りやケアの現場で検討しながら対応している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアマネジャーやケアスタッフが参加し、3ヶ月に1回、ケース会議を実施している。月末には介護計画に基づくまとめを行い、反省や気づきを来月に活かし、介護計画の見直しを検討している。	利用者がその人らしく暮らし続けることができるよう、本人や家族の意見を聞き、具体的な問題提起や解決策を盛り込んだ介護計画を作成している。また、利用者の発言を記録に残し、モニタリングしながら、見直しの検討に活かしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人ケース記録へ毎日記載している。入居者の活動内容や発言を記録に残すようにしている他、必要な情報は生活日誌に記載し、職員間で情報を共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	医療連携体制として、協力病院の往診や移送サービスでの町外での通院を、入居者やご家族様のニーズに応じて対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議に民生委員や町内連合会の参加があり、人的ネットワーク組織の構築に向けて協働している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医のある方は、職員の付き添いやご家族様の協力のもと対応している。週1回、看護師に相談できる体制や、緊急時には法人内の看護師の応援体制もできており、入居者の状況変化等の把握に努めている。	利用者や家族が希望する医療機関への受診を支援している他、殆どが訪問診療が可能な協力医療機関を主治医としている。また、受診結果は家族と共有している。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回、看護師が勤務している他、法人内の看護師の応援体制もできているため、入居者の状況変化を把握して適切な判断を仰ぎ、早期発見、早期治療に繋げている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	法人内の看護師と連携し、早期受診へ繋げている。また、病院の地域連携室に連絡をして、ご本人様の状況を電話で確認し、病院との情報交換を密に行っている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	レベルの低下等により介護計画の内容に変化がある場合は、その都度反映させ、介護計画をご家族様に説明している。また、重度化してきた場合、関連施設がいくつかあるため、併せて説明をしている。	「安心と満足」を基本理念とした「看取りに関する指針」を明示している。現在はホームでの看取り介護は行っていないが、重度化した場合は、家族や主治医、看護師と話し合いを持ち、敷地内の併設施設や協力医療機関と連携し、入院や転所の支援を行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルを備え、マニュアルに基づいた訓練を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	日中、夜間想定避難訓練を実施している。消火器や避難通路の確保、設備点検を定期的に行っている。	定期的に消防署立ち合いの避難訓練を実施している他、毎月、誘導や地震等の課題を設定した独自の訓練も行っている。また、災害発生時に備え、飲料水や食料、衛生用品等をホーム内に用意している他、福祉避難所の指定を受け、地域全体の体制構築にも努めている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	勉強会に取り入れれたり、職員会議後のミーティングで、普段の支援の振り返りを行っている。	利用者の言動を否定したり、拒否することなく、「その人らしく」の理念のもと、職員は利用者の自己決定を大事にした支援を心がけている。また、利用者への声かけや対応についても学習し、職員間で確認合っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	常に入居者に自己決定を促す対応を心がけ、働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その人らしさを大切にしながら、活動に参加していただいたり、入居者の言葉を聞きながら、メリハリのある生活を支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	生活日誌を基に入居者に意向を伺い、その日の服装を決めたり、髪型のこだわりを大切にしている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	調理スタッフと一緒に調理作業をしたり、おやつ作りでは作る過程を一緒に行っている。また、後片づけを共に行っている(配膳、下膳、おしぼりをたたむ、丸める、テーブル拭き、食器拭き)。	利用者は職員と一緒に、皮むきや大根おろしをしたり、茶碗拭き等を行っている。介助を必要とする方は少ないが、職員は見守り、会話を交えながら、利用者がそれぞれのペースで食事を楽しめるように支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	日中状況のチェック表に記録し、把握に努めている。摂取状況が低下している場合は、品物を変えて補食を取れるようにしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを行い、声がけや見守りにて義歯洗浄や自歯のブラッシングを促し、確認している。また、提携の歯科医師と連携を図り、往診にて見ていただいている方もいる。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	時間でのトイレ誘導や声がけを行っている。入居者一人ひとりの排泄を感じたサインや仕草、訴えが異なるため、そのサインを見逃さないよう、随時対応している。	利用者の排泄状況を記録し、把握している。また、体調不良等で失敗した時は、他の利用者に気づかれないよう、さりげなく速やかに対応している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	運動、水分管理を毎日行い、排便チェック表を用いて、便秘日数を申し送りしている。下剤が必要な方は医師へ相談し、処方されたものを服用している。また、状況を見て、医師へ排便状況を報告している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた支援をしている	曜日の固定はしているが、入浴の順番は固定せずに対応している。拒否がある場合は時間を空けて再度促しているが、それでも拒否がある時は、翌日に促している。また、今、入りたいという希望にも柔軟に対応している。	週2回の入浴日を設け、利用者の希望を聞きながら、ゆっくりと入浴していただけるように支援している。また、入浴を拒否する利用者にはアプローチを工夫しながら、柔軟に対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	食後に休息を勧め、日中の活動(作業や体操、レクリエーション活動)で夜の安眠に繋げている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服薬のセッティングは日中のリーダーが個人のトレイ内に揃えて置き、トレイと薬の袋の名前が同じである事、いつの薬かを確認した上でセットしている。内服後はトレイに戻し、飲み込むまで確認をしている。副作用等が出た場合はすぐ確認できるよう、処方箋は個人ケースに入れている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	毎日の日課で、できる方は洗濯物たたみや茶碗洗い・拭きを行っており、その後にコーヒーや個人購入されたものがあれば、おやつやジュースを提供している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	入居者一人ひとりの外出はできていないが、ドライブに出かけている。また、ご家族様の希望もあり、気分転換を含め、人混みは避けていただきながら、町内の散歩に外出される方もいる。	コロナ禍により、行事の中止や外出自粛等がある中で、庭に七輪を並べて焼き鳥を焼いたり、近所に散歩に出かける等、工夫しながら外に出る機会を設けている。また、おやつ作りをしたり、ホーム内で売店を開く等、利用者の楽しみとなるような取り組みを行っている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	なかなかお金を使う場面はないが、気分転換をしながら、自販機でジュースを購入して帰園されたり、売店を開き、思い思いに買い物をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居者宛に届いた物はご本人様に開けていただくようにしている。電話の際は入居者と代わり、話をしていただいたり、電話をかけたい時は職員が番号を入力し、繋いでいる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	館内は季節を感じられる装飾を行っている。共用の場は毎食後に掃除をし、テーブルは消毒を行っている。温度・湿度計は各居室フロアに置き、いつでも確認できるようにしている。	ホールや廊下は広く、ゆったりとして開放感があり、利用者は食卓やソファで思い思いに過ごしている。大きな窓からは陽光が入り、外の景色から四季を感じることができる他、ホームでは係を決めて、ホーム内の季節の装飾にも配慮している。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	騒音が苦手(些細な他者同士の会話にも敏感)な方が不快にならないよう、他者との距離感を設けたり、いくつかテーブルを準備して、自由に座れるように配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使い慣れた物の持ち込みを促しているが、特別な持ち込みは現在はない。台所は常に出入りしやすいため、積極的に調理の手伝いをしていただいている。	利用者が居室で安心・快適に暮らせるように、自宅で使い慣れた物の持ち込みを働きかけている。また、利用者の状態に合わせ、意向や要望を聞きながら、職員と一緒に居室作りを行っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室入口に表札を付け、居室の間違いを防いでいる。トイレに関しては、入居者にわかりやすい表記の表札を付けている。また、歩行不安定な方については、職員の付き添いのもと、なるべく歩いていただいている。		